



1月 給食だより



令和 4 年 1 月 1 1 日
狛江市立和泉小学校
校長 鷲見 真太郎
主任栄養教諭 早乙女 理恵

あけましておめでとうございます。今年も心や体を満ち、食を通して学びを深める、おいしい給食を目指します。空気も乾燥しています。手洗いうがいをして、風邪などの予防をしましょう。

1月24日～1月30日は「全国学校給食週間」です

学校給食の歴史は、明治22年、山形県鶴岡市の忠愛小学校で、お弁当を持ってくることのできない児童を対象に、昼食（おにぎり、焼き魚、漬物）を出したのが始まりです。その後、給食は全国に広まりましたが、第二次世界大戦が激しくなると給食は中止になりました。「ララ（アジア救済団体）」から脱脂粉乳が寄贈され、昭和21（1946）年12月24日から東京、神奈川、千葉で学校給食が再び始まり、この日が給食記念日となりました。ただ、12月24日が冬休みに入るため、1か月後の1月24日からの1週間は「全国学校給食週間」としたのです。現在は子供たちの食生活を取り巻く環境が大きく変化し、学校給食は子供たちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健康的で心豊かな食生活を送るために、とても重要な役割を果たしています。



鶴岡市のお寺「大督寺」

忠愛小学校は、大督寺の境内にありました。このお寺のお坊さんが、一軒一軒お経を唱えながら民家を回り、お米やお金をいただき、弁当を持ってこれない子供たちに昼食を作りました。



学校給食発祥記念碑

昭和34年に、学校給食70周年記念式典開催され、記念碑が建立されました。

学校給食の移り変わり

大督寺敷地内に「学校給食発祥の地」の記念碑

昭和22(1947)年1月

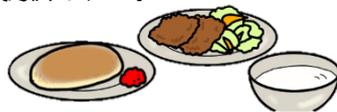
戦後すぐの給食は、アメリカからの支援物資である脱脂粉乳と、脱脂粉乳と缶詰で作ったシチューなどが提供された。



- ・脱脂粉乳
- ・トマトシチュー

昭和27(1952)年

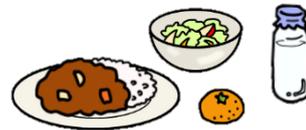
肉は手に入らないため、主に鯨肉がたんぱく源として提供された。



- ・脱脂粉乳・鯨の竜田揚げ
- ・コッペパン・サラダなど

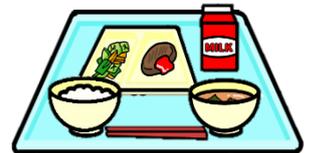
昭和52(1977)年

米を使った学校給食が始まる。



- ・牛乳
- ・カレーライス
- ・果物
- ・サラダなど

完全給食と呼ばれる現在の給食の形になる



1月24日から1週間は、全国学校給食週間特別献立で昔の給食を再現します。1月24日の初日は明治22年の給食を再現するため、「牛乳」の提供をしません。エネルギーが低くカルシウム摂取量も少ないため、ご家庭で間食や夕食で補充をお願いいたします。25日は「わらじパン」ともいわれた大きなコッペパンを出したかったのですが、現在はパン工場も製造していないので、いつもより一回り大きいパンにしました。26日はソフト麺です。正式には「ソフトスパゲティ式麺」といいます。そしてかつての給食の王者「鯨の竜田揚げ」です。昔の給食を食べながら、給食の意義や役割について考えてみましょう。